提供日　2022/10/13
タイトル　DailyReport10/13
担当　(一社)美しい伊豆創造センター　小柴
連絡先　TEL　0558-72-0520　携帯　090-9006-2250
MAIL info@izugeopark.org　FAX　0558-72-1355

現地審査 DailyReport(10/13)

現地審査３日目の概要を伝えします。

南伊豆オーシャンパーク(9:30～10:40)

オーシャンパークは 2019 年にオープンした。岡部克仁町長の出迎えを受けた審査員は町商工観光課の鈴木英俊主事から町の取り組みを聞いた。鈴木氏は「行政と民間の役割分担を明確にした上で、今後もジオパーク活動をしっかり推進していきたい」などと強調。審査員からは「町がつくったポスターはどういうところに貼り出しているのか」「どのようにジオリアと南伊豆ビジターセンター(VC)の連携をとっているか」などの質問が出た。次いで池野玉枝ジオガイドの案内で、強風の中、石廊崎ガイドツアーを体験した。審査員は灯台に関心を持ったようで、「建造当時、灯台の明かりには何が使われていたのか。焚火か油か」などと質問、池野さんは「なたね油を使っていた。当時は自動化していなかったので、毎日灯台まで歩いてきて、火を点けていた」などと答えた。

しーもん(11:30～12:30)

審査員は道の駅開国下田みなとで、青木真由里ジオガイドからビーチクリーニング(海岸清掃)活動の話を聞いた上で、清掃の際、拾ったプラスチック片を材料としたアクセサリ作りを楽しんだ。また、斎藤武ジオガイドは「1000年後の子どもたちにキレイな地球をプレゼントしよう」を合言葉に伊豆ジオスクールを始めたことを紹介。「子どもたちがごみを拾う姿を見て、一緒に参加したいという親が出てきた」と説明すると、審査員は「子どもの姿を見て親が変わるというのは非常に興味深い」と評価した。

提供日　2022/10/13
タイトル　DailyReport10/13
担当　(一社)美しい伊豆創造センター　小柴
連絡先　TEL　0558-72-0520　携帯　090-9006-2250
MAIL info@izugeopark.org　FAX　0558-72-1355

伊豆急 SDGs トレイン(13:09～13:54)

伊豆急が今年 7 月から運行を始めた SDGs トレイン「ツナグデンシャ」は伊豆半島ジオパークにおけるパートナーシップのシンボル的存在。審査員は伊豆急下田駅から伊豆高原駅まで、同トレインに乗車した。車内では鈴木正人伊豆急ホールディングス営業推進課長と辻修次研究員から、同トレインが作られた経緯、作成の苦労や車内展示の説明を受けた。下田駅では松木正一郎市長のお見送り、伊豆高原駅では小林秀樹伊豆急 HD 社長の出迎えを受けた。

ジオテラス(14:00～14:20)

伊東 VC「ジオテラス」の案内板は伊東高校城ヶ崎分校の高校生が制作したもので、高校生からは「伊東の自然を楽しんでください」とのビデオメッセージが送られていた。審査員はビデオを見ながらしきりにうなずいていた。さらに関みどりジオガイドの案内で館内を見学。審査員からは「年間訪問者数はどれくらいか」「1 カ月ごとに展示替えしている企画展で、展示内容を決めるのはだれか」といった質問が出た。

大室山(14:45～16:00)

大室山は今回の現地審査の最終審査先。まず、麓の解説板前で、まちこん伊東の田畑朝惠ジオガイドが地元の募金で更新したことを強調。山頂では、山崎仁ジオガイドが「ここは山と地域と人々の生活が一体となっている場所である」と、美しい景観が地元・池区の山焼きによって保たれていることを説明。審査員は山焼きに強い関心を示し、「どうやって山を焼くのか」「山焼きの植生に与える効果にはどういうものがあるか」などと熱心に質問。山崎ガイドに代わって、高橋義典池観光社長が山焼きの手順などを詳細に説明した。審査員は「来年の山焼きのときには是非来たい。最後の場所(審査先)にとても満足している」との感想を述べた。

以上